耳鼻咽喉科疾患に伴う慢性咳嗽

兵庫県立加古川医療センター　耳鼻咽喉科　部長　阪本浩一

慢性咳嗽は、呼吸器内科のみならず、耳鼻咽喉科外来においてもしばしば経験される病態である。その原因として、咳喘息、アトピー咳嗽など下気道に原因をもつ疾患、GERDによる咳嗽と並んで、後鼻漏症候群、喉頭アレルギーなど、上気道に原因を持つ、耳鼻咽喉科領域疾患の関与も重要である。われわれは、慢性咳嗽を訴え耳鼻咽喉科外来を受診した症例を対象に、喉頭アレルギーと後鼻漏症候群、GERD、下気道疾患などを広く念頭においた鑑別診断を行なっている。当院耳鼻科外来を受診した遷延性および慢性咳嗽、咽喉頭異常感を訴えた症例に対して、喉頭アレルギー診断基準2011年案に基づく診断を試みたところ、最終診断では、喉頭アレルギーが28%、副鼻腔炎による後鼻漏症候群が30%、アレルギー性鼻炎による後鼻漏症候群が16%、GERDによる症例が16%となった。以上より、後鼻漏症候群、喉頭アレルギーは、慢性咳嗽の原因として念頭におく必要のある重要な疾患であると考えられた。しかし、その診断の過程で、個別に症状・所見を検討すると、後鼻漏は69%で認められ、RASTは76%で何らかの項目でスコア１以上であり、GERDは29%に認められた。以上より、実際の診断にあたっては、多様な病態が併存していることが多く診断には注意が必要である。特に後鼻漏の存在をどう考えるかが重要で、漿液性の鼻汁が内視鏡で認められる場合の、喉頭アレルギーとアレルギー性鼻炎による後鼻漏の判断は困難な場合も存在する。

診断の詳細と代表的な症例を示し、耳鼻咽喉科領域の慢性咳嗽について解説する。